

第5回 広瀬川(大橋周辺)水辺利活用検討会 議事概要

◆ 日 時 : 令和8年3月27日(金) 14時00分～15時40分

◆ 場 所 : 市役所本庁舎8階 第四委員会室

◆ 出席者

《検討会委員(6名/8名)》

熊谷 祐次	立町地区町内会連合会副会長
○榊原 進	特定非営利活動法人都市デザインワークス代表理事
西大立目 祥子	フリーライター青空編集室主宰
根本 暁生	特定非営利活動法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク 副代表理事
早坂 一夫	片平地区連合町内会会長
◎宮原 育子	宮城学院女子大学・宮城大学名誉教授

(◎:座長 ○:座長代理)

《オブザーバー》

赤池 光弘	宮城県土木部河川課総括技術補佐
田名部 一朗	宮城県仙台土木事務所河川砂防第一班技術主幹

《事務局》

鈴木 江美子	建設局百年の杜推進部長
水嶋 信文	建設局百年の杜推進部百年の杜推進課長
庄司 明浩	建設局百年の杜推進部百年の杜推進課主幹兼広瀬川創生係長
小松 健一	建設局百年の杜推進部百年の杜推進課広瀬川創生係主査

◆ 欠席者

荒木 笙子委員、結城 由夫委員

<次 第>

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事

広瀬川(大橋周辺)水辺利活用基本計画(素案)について

4. その他

今後のスケジュールについて

5. 閉 会

事務局 (百年の杜推進課長)	<p>1. 開 会 これより、第5回広瀬川(大橋周辺)水辺利活用検討会を開会する。</p>
事務局 (百年の杜推進部長)	<p>2. 挨 拶 (百年の杜推進部長挨拶)</p>
事務局 (百年の杜推進課長)	<p>3. 議 事 本日の会議の出席に関して、荒木委員、結城委員より所用につき欠席との連絡をいただいている。</p>
	<p>本日の出席委員は定数の過半数に達しており、会議が成立していることを報告する。 本日はオブザーバーとして、宮城県土木部河川課 総括技術補佐 赤池様、仙台土木事務所 河川砂防第一班 技術主幹 田名部様に出席いただいている。 それでは、これより議事に入る。 進行は広瀬川(大橋周辺)水辺利活用検討会設置要綱第5条により、宮原座長にお願いする。</p>
宮原座長	<p>議事に入る前に、会議の公開・非公開について確認する。 本日の議題は非公開とすべき事項がないことから、公開として良いか。</p> <p>— 委員了承 —</p> <p>議事録署名人について、議事録は座長の他、五十音順で委員の中から1名お願いしている。今回は、根本委員にお願いする。</p> <p>— 委員了承 —</p> <p>これより議事に入る。事務局から説明をお願いする。</p>
事務局 (百年の杜推進課)	<p>【広瀬川(大橋周辺)水辺利活用基本計画(素案)について】 (資料1および2、参考資料について説明)</p>
早坂委員	<p>< 質疑 ></p> <p>フット照明とあるが、防犯照明というか、どのようなものを予定しているのか。 また、設置にあたっては、近隣住宅に影響のないような防犯システムにしていきたい。 次に、この整備が行われると良い憩いの場になると思う。高齢の方もゆったりと過ごしていただけるよう、ベンチを設置するなどの配慮があっても良いのではないかと感じた。 また、来訪者のゴミ捨てなどの問題もあるため、マナー何ヶ条のような、使い方のマナーをお伝えすることも必要である。</p>

<p>事務局 (百年の杜推進課)</p>	<p>フット照明については、現時点ではどのような仕様とするか具体の検討には至っていない。</p> <p>周辺には住宅が隣接している場所もあるため、夜間における光の影響にも配慮しながら検討を進めていく。</p> <p>また、河川区域内ということもあり、配線面での課題も想定されるが、設置そのものの可否含め、今後、河川管理者に相談しながら検討していきたい。</p> <p>ベンチについては、本市としても設置したいと考えており、現在は仲ノ瀬緑地水辺エリア周辺を想定していたところであるが、その他のエリアについても河川管理者に相談しながら、検討していく。</p> <p>ゴミ捨ての問題については、計画エリア周辺に屋内遊び場や複合施設の指定管理者が入る見込みであるため、連携・協力しながら、どのようなルールとしていくのか、今後、検討を進めていきたい。</p>
<p>根本委員</p>	<p>水質について、大雨後を除いては問題ないということ、川に入っても大丈夫だろうということで、まずは良かったと思っている。</p> <p>一方で、川で活動する方の話では、全体的に水質は良いが、大雨で合流式下水道からの越流が起きた際は、一時的に汚れがかなり目立つと聞いている。</p> <p>例えば、どのくらいの雨が降ると越流が起きやすいのか、越流が起きたとしてもどの程度時間が経過すれば安心して川に入れるのか、目安となるものが今後できれば良いなと思ったところである。</p> <p>次に、西公園の水辺エリアについて、階段工(スロープ付)の位置を既存のスロープよりも少し上流側に計画している点は、とても良いと感じた。</p> <p>昨年 8 月に、こども若者局の事業でこのエリアの水辺を利用した際、既存のスロープから降りてきた子どもたちに、せせらぎ水路へ向かってほしいと思っていたのだが、実際には既存のスロープから最も近い、せせらぎ水路より下流側の本流部に行ってしまう状況が見受けられた。その点で、計画の位置から河川敷に降りることが通常の動線となれば、せせらぎ水路へ足が向かいやすくなるため、良い案だと思った。</p> <p>一方、このエリアに計画している親水護岸(階段)については、私が日頃現地を見ている印象だと、水位にもよるが、階段全体が水面よりも上に出してしまうことが多い場所なのではと感じた。</p> <p>親水護岸(階段)にも様々な造り方があると思うが、これまで見てきたものは水位が低い時でも階段の最下段よりは上に水があるケースが多かったように思う。</p> <p>その点、この場所では場合によっては階段を降り切ってから水に触れるという時期も多いのではと感じるが、この場所に親水護岸(階段)を設ける計画とした意図を教えてください。</p> <p>また、今後、具体的な検討を進めるにあたっては、普段から水辺での活動をしている方、現地をよく知っている方に意見を聞いて、完成後に、何故この場所にこういうものができたのだろう、と言われないようにしていきたい。</p>
<p>事務局 (百年の杜推進課)</p>	<p>どのくらいの雨が降ると合流式下水道から越流が起きやすいのか、という点について、現時点で把握できていないが、把握する術があるのか含め、下水道担当部署に相談する。</p> <p>親水護岸(階段)の配置については、カヌーのイベントが開かれた際、この辺りから</p>

<p>根本委員</p>	<p>川に入る状況を確認しており、日常的な利用に加え、イベント利用も見据えて選定している。</p> <p>また、親水護岸(階段)の設置予定位置における水面の話があったが、確かに現状では水深はほとんど無いが、今回の計画は、河川管理上定められている河川断面を踏まえた形としており、整備に合わせて河床を掘り込むことになる。</p> <p>そのため、現在よりも水深を確保できるのではないかと考えているが、令和8年度に実施する測定の結果をもとに、十分な水深が確保できないと判断された場合には、位置の変更も含めて、改めて検討する必要があると考えている。</p> <p>素案本編の 44 ページに「安全に遊べる親水空間(湾処)の整備」として、高岡市の事例写真が掲載されているが、このようなイメージを想定しているのであれば、屋内遊び場の前の水辺では、初めて訪れる人でもこの石までは入って良いのだなど、遊びやすくなるのではないかと感じた。</p> <p>この44ページの写真は、そういった意図で載せているのか。</p>
<p>事務局 (百年の杜推進課)</p>	<p>先ほどのカヌーの利用もあり、そのような利用形態を想定したものではなかったが、石の外側にボートを据えて、そこから乗り降りする、といった使い方も考えられるため、委員から指摘いただいたように、イベントで利活用される方の意見も聞いて、検討していく。</p>
<p>西大立目委員</p>	<p>根本委員の発言のとおり、具体の設計にあたっては、それぞれのエリアで日常的に、継続的に活動されている方々の意見を聞いて進めていただきたい。</p> <p>毎日のように川に入っている方は、全く違うものを見ていると感じている。こどもの頃からこの場所を見続けてきた方々の声を検討に活かしていただきたい。</p> <p>仲ノ瀬緑地の水辺エリアについて、概要版 11 ページ右側の図を見ると色分けがされており、黄色で示されている部分はグラウンドの使い方を継続し、緑色のところも現状維持をするのか。そのあたりが読み取りにくい、いわゆる公園的な整備に見て取れ、気になっている。</p> <p>賛成か反対かと問われれば、まだ判断はつかないが、対岸に崖が見えるような環境の中で、この場所に植栽や園路みたいなものがある、いわば街中や下流域にあるような整備の仕方がふさわしいのか、もう少し委員で考えていけたらと思っている。</p> <p>また、崖の上からスロープで降りてくることについて、この場所の魅力は、崖や高低差そのものにあると思う。その高低差を隠すようなスロープではなく、むしろ崖の存在を強調するような造り方もあって良いのではないかと感じている。</p> <p>人が集い、安らいだり、学んだりできる快適な空間をつくることだけでなく、あえて歩きにくい場所を残したり、雨のたびに水に浸かり、浸食され、また流されていくような、自然の変化を観察できる場所を残すという考え方もあって良いのではないと思う。</p> <p>さらに、これからの公共施設の整備は、障害のある方を中心に据えて考えることが大事である。</p> <p>健常で元気に歩ける人を前提に検討し、ある程度進んでから車いす利用者の意見を聞く、というのではなく、初めから、車いすの方がこのスロープを降りられるか、視覚障害のある方が歩けるか、聴覚障害のある方がいざという時に大丈夫か、といった視点を中心に据えて考えることが大切である。そうすれば、誰にとっても使いやすい空間</p>

<p>熊谷委員</p>	<p>になると考えている。</p> <p>仙台市のホームページにも掲載されているが、アイサポートという視覚障害者支援のNPO法人があり、時々、白杖を使う方々のまち歩きガイドをしている。</p> <p>参加者が15人いれば、ヘルパーさん含めて30人ほどになるが、先日も緑彩館周辺を歩いた際、とても積極的で元気な様子であった。こうした空間が整備されれば、多くの方が外へ出てこられると思う。</p> <p>配慮する、ではなく、そうした方々を真ん中に据えて考える整備をお願いしたい。</p> <p>先月、立町地区で17町内会が集まる町内会長会議が開催された。その際、広瀬川の整備に関する課題も話題となった。</p> <p>整備されて綺麗になること自体は良いが、やはりオーバーツーリズムのように人が過度に集まる状況は困ると。また、親水性を高めることで事故の増加が懸念されるという声もあり、海水浴場のような監視員の配置を仙台市でしっかりやっただけならばという意見が多くあった。</p> <p>ハード面の整備だけでなく、人の流れのコントロールや監視体制といったソフト面についても、しっかり考えてほしい。</p> <p>また、会議の中で特に多く挙げたのが、サインについてである。</p> <p>現在、立町では郷土史を作ろうということで、いろいろと調べているが、伊達政宗公以前の歴史も多くあることが分かった。</p> <p>国分氏など詳しく調べている方も地域にはいるので、そうした知見を仙台市でも活用していただければと思う。</p>
<p>榊原座長代理</p>	<p>本日、二名の委員が欠席しているが、事前に意見は何っているか。最終形に近いような中間案となる前に、しっかりと意見を言えるタイミングはここなのだろうと感じたところである。</p>
<p>事務局 (百年の杜推進課)</p>	<p>本日欠席された二名の委員にも、他の委員同様、事前に資料は送付しているが、現時点で意見はいただけていない。</p> <p>二名の委員には議事録をまとめたうえで改めて意見を伺う。</p>
<p>榊原座長代理</p>	<p>素案の概要版10ページにある計画区域について、その位置付けを都市公園法上の都市公園とする想定ということだが、都市公園というと感覚的にはいわゆる街中にある一般的な公園と感じる。</p> <p>「河川にある都市公園」という意識を持ち、「都市公園」という言葉が持つ既存のイメージとは異なる工夫があると良いと思った。</p> <p>素案の概要版11ページの飛び石であるが、実際に水上フットパスを行った経験からすると、やはり飛び石(横断)があったら良いなという思いがある。</p> <p>イベントで仮設的にでも構わないが、常設という選択肢も個人的には残したいと思っている。</p> <p>前回、帯工の話も出たが、例えば帯工と飛び石の機能を兼ねるようなことはできないのか、その点、ぜひ検討いただきたい。全国的にも事例があるのであれば、教えていただきたい。</p> <p>西公園の水辺エリアについて、根本委員が発言したとおり、大橋側の既存スロープ</p>

<p>事務局 (百年の杜推進課)</p>	<p>から入ると、なかなかその先の上流側に人が足を運ばない状況に見受けられた。</p> <p>せせらぎ水路の活用や、屋内遊び場と広瀬川との連続性を考えると、計画している階段工(スロープ付)がこの位置にあるというのは、適切だと感じた。</p> <p>仲ノ瀬緑地の水辺エリアについては、複合施設の利用者がまとまって河川敷へ降りてくる際、住宅地を通らせない代わりに動線として、このスロープは有効なのではないかと考えていた。</p> <p>一方で、崖の高低差を実感しながら垂直的に下りていくような体験をするということも重要ではないかと感じており、河川にある都市公園という考え方の中で、そうした荒々しい自然性を体験できる要素があっても面白いなと思って聞いていた。</p> <p>フット照明の話があったが、青葉山公園ではナイトコンテンツに力を入れており、例えば眼鏡橋である大橋を下からライトアップすることで、大きな資源になるのではないかと感じている。</p> <p>通年でなくとも、例えば夏の期間限定など、イベント的な形でも構わないので、夜でも水辺に近づきやすくなるきっかけとなればと思ったところである。</p> <p>素案の「今後の課題」のところで、文書に「必要があります」と使われているが、この表現では第三者的な立場であるかのような印象を受けた。</p> <p>また、「今後の課題」という表現も、基本計画の段階で課題を残すのはいかがなものかと感じる。「計画推進に向けて」など、前向きで、次のアクションにつながる見せ方にした方が良いと思う。</p> <p>都市公園としての位置付けで管理していく方針は変わらないと考えているが、その管理をどのようにしていくのか、また、新たな公園とするのか、それとも西公園や青葉山公園の一部として扱うのかといった、内部での調整、整理がしきれていないところである。この点について、引き続き検討を進めていく。</p> <p>次に、自然崖に関する意見についてであるが、委員のお見込みのとおり、スロープを設置する目的は、複合施設の整備により人の流れが確実に増えると想定しており、住宅地を通らずに水辺へ誘導する動線として、スロープが必要だと判断した。</p> <p>加えて、維持管理に際しても、車両が住宅地の中を通らずに河川敷へ降りられるというメリットも要因の一つである。</p> <p>西大立目委員から意見のあった、自然崖を隠してしまうという点については、完全に見えなくしてしまうのではなく、できるだけ身近に感じられるような設えを意識している。</p> <p>具体的には、桜の小径からスロープを下りていき、折り返し地点に平場を設ける計画としているが、その平場に至るまでのスロープの右手側では、最大で約 2m程度の自然崖を間近で見ることができるようになるイメージである。</p> <p>また、その平場は多少、広くしており、人が集えるとともに、そこからも下流側の自然崖を感じられるような配慮をしている。なお、河川の洪水の影響を受けるライン、HWL(ハイウォーターレベル)よりも上としており、安全管理上も問題ないと考えている。</p> <p>一方で、計画しているスロープは勾配を緩くするバリアフリー構造であり、その必要な長さは約200mとなることから、結果として崖の一部が隠れてしまうというのが悩ましいところではあった。</p>
--------------------------	---

早坂委員	勾配はどのくらいか。
事務局 (百年の杜推進課)	<p>勾配は 6%である。この勾配で高低差が約 15mの場合、延長としては約 200m程度となる。</p> <p>ただし、バリアフリーに配慮した勾配であっても、必ずしも上りやすいか、という視点は確かに詰めきれていなかった部分がある。西大立目委員のご指摘のとおり、意見を聞きながら検討していく。</p> <p>また、ナイトコンテンツに関する意見をいただいたが、大橋は歴史的建造物として位置づけられていることから、その価値をより引き立てる取り組みとして、ライトアップなどのイベントは観光誘客にもつながるものと考えている。</p> <p>本事業だけでの対応は難しいため、観光担当部署に相談しながら、方向性について検討する。</p>
事務局 (百年の杜推進課長)	今後の課題という表現について、委員ご指摘のとおりと受け止めており、適切な表現に修正する。
宮原座長	<p>閲覧用の青葉山公園水辺エリアのパスでは、芝生のようなものがきれいに敷き詰められ、カラー舗装された遊歩道を整備するように見受けられるが、このエリアは既に草が生えている。どのような整備をイメージしているのか。</p> <p>また、仲ノ瀬緑地水辺エリアの整備イメージも教えていただきたい。</p>
事務局 (百年の杜推進課)	<p>青葉山公園水辺エリアについて、張り芝などの整備をするイメージではなく、定期的な除草を行い、来訪された方が河川敷を利用しやすいよう、維持管理していくイメージであった。</p> <p>他のエリアも同様で、大手町、西公園の水辺エリアについても、現状の草地をきれいに除草し、利用しやすいよう維持管理していくイメージである。</p> <p>仲ノ瀬緑地水辺エリアについて、こちらは、現在の仲ノ瀬緑地の形状や使われ方を踏襲するイメージで考えている。</p> <p>図面の茶色の部分は、現在、有料の運動公園施設として少年野球やラクロスなどに利用されている場所である。その機能は今後も維持していきたいと考えており、現在と同程度の面積を確保し、土舗装とする計画である。</p> <p>その左隣の緑色の部分は、現状でも張り芝となっており、花火大会の際には栈敷席が設けられている場所である。</p> <p>このエリアについては、有料の運動公園施設としてではなく、日常的に誰でも自由に利用できる空間として残したいと考えている。</p> <p>仲ノ瀬橋よりも北側のエリアは、もともと芝生広場として整備された場所であるが、現状、維持管理が行き届いていない状況であり、利用者が非常に少なくなっている。</p> <p>そのため、仲ノ瀬緑地水辺エリアにはスロープを計画しており、それにより人の流れが出てくると想定しているため、これと併せて、改めて芝生広場として整備し直すことで、このエリアの利活用も促進されるのではないかと考えている。</p>
宮原座長	今後、整備がなされた後には、様々な方がこの水辺空間を利用されることになると想定しているが、利用者の視点で考えると、例えばテントや椅子を持ち込んで、キャン

	<p>プのように過ごす方、釣りをされる方、バギーを持ってお子さん連れで訪れる方など、様々なスタイルが考えられる。</p> <p>そうした方々の多くは車で来られる可能性が高いと思われ、緑彩館をはじめ、既存の駐車場はあるが、今後、道具を持ち込んで水辺を楽しむ利用者が増えてきた際には、駐車トラブルが発生すると考えられる。</p> <p>特に、大手町の水辺エリアは堤防の背後が住宅地となっているが、つい近くに車を停めてしまうといったことも起きる可能性がある。</p> <p>さすがに、西公園に駐車して、重い荷物やお弁当などを持って長い距離を歩いて来る、という利用はあまり現実的ではないように思う。</p> <p>そのため、水辺利活用の計画区域だけでなく、訪れる利用者の動線も考えながら、周囲も含めた検討を進めていくことが望ましい。</p> <p>サインの計画で、どこにどういうものを設置するか関係部署とも調整しながら、と、挙げているが、この計画区域の中にどのようなサインを設置するか、という視点だけでなく、例えば屋内遊び場の広瀬川が見える場所に、広瀬川とはこういうところですよ、水辺で遊ぶときは、こんな点に気をつけましょう、といった情報を分かりやすく掲示することも考えられるのではないかと。</p> <p>子どもを遊ばせようと訪れる保護者の目に入りやすい場所に、そうした情報があることで、伝えたい人に伝えたい内容がきちんと伝わる形になるのではないかと感じた。</p> <p>今週、青葉山公園の利用のあり方について市民同士で話し合う場に参加したが、青葉山公園を利用している人の中でも、広瀬川にこんなふうにはアクセスできるということを知らない人が多いのではないかと話される方が多数いた。</p> <p>そうした視点で改めて計画を見ると、親水護岸(階段)は他のエリアには整備を予定しているが、青葉山公園水辺エリアにはない。これは、あえてすみ分けしたということなのか。</p> <p>先ほど、大手町水辺エリアは駐車場が少なくアクセスしづらいという話があったが、青葉山公園には駐車場もあり、アクセスしやすい場所でもあるため、そう考えると、青葉山公園水辺エリアにも広瀬川の水に親しみやすくなる工夫があっても良かったのではないかと感じる。意図を確認させてほしい。</p>
<p>根本委員</p>	<p>サインの計画で、どこにどういうものを設置するか関係部署とも調整しながら、と、挙げているが、この計画区域の中にどのようなサインを設置するか、という視点だけでなく、例えば屋内遊び場の広瀬川が見える場所に、広瀬川とはこういうところですよ、水辺で遊ぶときは、こんな点に気をつけましょう、といった情報を分かりやすく掲示することも考えられるのではないかと。</p> <p>子どもを遊ばせようと訪れる保護者の目に入りやすい場所に、そうした情報があることで、伝えたい人に伝えたい内容がきちんと伝わる形になるのではないかと感じた。</p> <p>今週、青葉山公園の利用のあり方について市民同士で話し合う場に参加したが、青葉山公園を利用している人の中でも、広瀬川にこんなふうにはアクセスできるということを知らない人が多いのではないかと話される方が多数いた。</p> <p>そうした視点で改めて計画を見ると、親水護岸(階段)は他のエリアには整備を予定しているが、青葉山公園水辺エリアにはない。これは、あえてすみ分けしたということなのか。</p> <p>先ほど、大手町水辺エリアは駐車場が少なくアクセスしづらいという話があったが、青葉山公園には駐車場もあり、アクセスしやすい場所でもあるため、そう考えると、青葉山公園水辺エリアにも広瀬川の水に親しみやすくなる工夫があっても良かったのではないかと感じる。意図を確認させてほしい。</p>
<p>事務局 (百年の杜推進課)</p>	<p>青葉山公園水辺エリアについては、素案本編 60 ページをご覧くださいと「飛石工(横断)」と記載した赤丸の箇所があり、この周辺は親水護岸(階段)を設けずとも、水辺まで近づくことができるスペースとなっていることを確認している。</p> <p>比較的、水辺に近づきやすい地形となっていることから、このエリアについてはできるだけ手を加えず、自然や歴史を現状のまま楽しめる空間にしたいという考えのもと、あえて親水護岸(階段)を設けない計画とした。</p> <p>今後の設計にあたっては、改めて水辺への近づきやすさについて確認したうえで、検討を進める。</p>
	<p>根本委員</p> <p>誤解のないように申し添えると、こうした親水護岸(階段)のようなコンクリート構造物を、さらに増やしたほうが良いという意味ではなく、親水護岸(階段)などを設けなくても水辺に近づくことができるのであれば、それが最も望ましい形だと考える。</p>

<p>宮原座長</p>	<p>各委員から一通り意見をいただいた。本日オブザーバーとして出席いただいている宮城県河川課、仙台土木事務所からもコメントいただきたい。</p>
<p>宮城県 仙台土木事務所 (田名部技術主幹)</p>	<p>素案の概要版 17 ページに記載されている「今後の課題」の、「(1)施設整備に関する検討課題」で、河川区域内に構造物を設けることによる流況の変化や安全性の確保、施設の維持管理について記載がある。このことに関し、河川管理者の実情をお伝えしたい。</p> <p>県では毎年、河川内の土砂を撤去する河道掘削工事、堆積土砂撤去工事を実施しており、広瀬川においても同様で、数千万円から億単位の事業費がかかっている。</p> <p>この工事は、洪水による浸水被害の軽減を目的に実施しているものであるため、そういった中での河川内への新たな構造物設置については、慎重な協議が必要になるということをご理解いただきたい。</p> <p>次に、施設の維持管理についてである。</p> <p>ご承知のとおり、大橋の下にはホームレスが滞在している。このことについて、行政指導、警察と連携した対応もしているが、地域の方より、ゴミが目立つので何とかならないかという声も寄せられるため、最終的には河川管理者である県がゴミの処分を行うケースも多く、こうした対応に年間、相応の費用が発生している。</p> <p>そのため、人が川に近づきやすくなるということは、維持管理の費用面でも負担が大きくなる可能性があると感じている。</p> <p>その他、新たな構造物を設けることは別に、既存の河川構造物をどう扱っていくか、という視点もある。</p> <p>前回説明した帯工をはじめ、現在のコンクリート護岸やパラペットといった施設は、昭和 20 年代の台風被害を機に整備されたものであり、当時の洪水の状況を物語る施設として、河川管理者としては先人たちの苦勞の積み重ねによって築かれた賜物だと捉えている。</p> <p>一方で、階段護岸を整備するには、既存の河川施設を改築する必要がある。そのため、その施設を壊して、川の中に人を導いて洪水の歴史を語るというのは、理由として成り立っていない部分もあるかと思うため、そういった目的の整理は、仙台市と引き続き調整していきたい。</p>
<p>宮城県河川課 (赤池総括技術補佐)</p>	<p>本日も、委員の皆さまからハード面・ソフト面の両方について、様々な意見をいただいた。仙台市の進める計画を、できる限り尊重していきたいとは思ひ、話を聞いていた。</p> <p>今回、基本計画策定の進捗に遅れが生じているということで、その理由の一つに河川協議があるが、先ほど話したように、前回の検討会以降、仙台市と慎重に協議を重ねているところである。</p> <p>また、それに加え、仙台市が同時に進めている複合施設や屋内遊び場整備との調整にも時間を要していると伺っている。</p> <p>この水辺利活用基本計画だけでなく、複合施設や屋内遊び場といった周辺事業とも整合を図りながら、整備の必要性、目的をしっかりと整理した上で、計画の検討を進めていただければと思う。</p> <p>細かなところは今後さらに詰めていくことになるが、一点、資料の表現で改めていただきたい点がある。</p>

<p>西大立目委員</p>	<p>素案の概要版 11 ページであるが、今回、「飛石工(横断)」について記載が加えられている。委員の皆さまからの、ぜひこうした施設があると良いという意見も承知しているが、広瀬川は普段は落ち着いた流れに見える一方で、少しの降雨でも流況が変わる。そのような中で、横断施設を恒常的に固定、設置することは、治水管理上、問題があると考えており、しっかり認識いただきたい。</p> <p>そのため、「横断する飛び石の整備を検討します」といった表現は残さない形で、再度、検討いただきたい。</p> <p>田名部技術主幹の意見に共感した。</p> <p>川に限らず、仙台の街中の再開発を見ていると、前の時代のものを無くして、道路も付け替えて過去の痕跡がほとんど残らない形で次の時代の風景が重なっていくというか。その結果、私達がどういうところから来たのか分かりにくくなっていく街になってきていると感じている。</p> <p>広瀬川の歴史には氾濫もあるため、整備にあたっては、難しさはあると思うが可能な限り前の時代の痕跡を残して、それを少しでも次の時代に見せられるような整備としていただきたい。</p> <p>例えば、評定河原の川の中央に大きな石があるが、それは戦後の大水害の際に流れてきたものだと教えていただいたことがあった。そうした一つのエピソードがあるだけでも、次の世代に語り継げる。そうした痕跡を丁寧に拾い上げていただきたい。</p>
<p>宮原座長</p>	<p>田名部技術主幹の話を伺い、広瀬川の治水の歴史を今回の整備の中の一つのコンテンツとして残し、語り継ぐきっかけとなるような仕掛けがあっても良いのではないかと感じた。</p> <p>現在ある構造物が、現状においても河川の治水に十分役立っているという点を踏まえたうえで、すべてを綺麗にしてしまうのではなく、広瀬川の治水の歴史、そしてその歴史を踏まえて川を大事にする姿勢が、今回の整備に表れることが重要だと思う。</p> <p>そのために皆さまから意見をいただいております、また、実際に川を利用されている方々からも現地で意見を伺いながら進めていけると、より良い整備につながるのではないかと考えている。</p>
<p>宮原座長</p>	<p>4. その他</p> <p>【今後のスケジュールについて】</p> <p>※3. 議事にて説明</p> <p>それでは、本日の議事を終了する。</p> <p>本日、二名の委員が欠席しているが、先ほど提案のあったとおり、改めて意見を伺い、中間案に反映いただければと思う。</p> <p>また、河川管理者の懸念等もあるため、調整のうえ検討を進めていただきたい。</p> <p>次回、5月下旬頃に中間案を提示いただける予定となっているため、本日の意見を踏まえた上での案をお願いする。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返すする。</p>

<p>事務局 (百年の杜推進課長)</p>	<p>5. 閉 会</p> <p>以上をもちまして、第5回広瀬川(大橋周辺)水辺利活用検討会を閉会する。 本日は誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
---------------------------	--